

# 令和6年度霧多布湿原学術研究 研究成果報告書

令和7年 2月 21日

浜 中 町 長 様

住 所 〒 070-8621  
所属（在籍）北海道教育大学旭川校  
氏 名 奥 寺 繁  
連 絡 先 0166-59-1313

## 1 研究テーマ

「湿地性・海浜性の希少性カメムシ目昆虫の多様性調査」

## 2 研究の目的

北海道の湿地および海浜環境は、近年の乾燥化や海岸浸食による攪乱が著しい。北海道レッドデータに記載されているカメムシ目昆虫の希少種 30 種のうち、これらの生息環境に関わるものは約半数を占めている。とりわけ道東地域の調査は乏しく、希少種の現状は未知である。またこれまで地表性カメムシ目の調査は困難であったが、最近にエンジンブローアールによる効率的な採集方法が試みられ始めた。これによりここ数年で日本新記録や北海道新記録が多数報告されている（奥寺ら 2021 ; 2023, Okudera & Hayashi, 2018）。そこで本研究では浜中町の海浜、塩沼地、湿地を横断的に調査することで、希少種保全と昆虫相の特殊性の解明することを目的とする。

## 3 調査対象昆虫

カメムシ目はおもに3つの亜目群、頸吻亜目（セミ、アワフキ、ツノゼミ、ヨコバイ、ウンカなど含む）、異翅亜目（タイコウチ、ミズムシ、カメムシなど）および腹吻亜目（アブラムシ、カイガラムシ、キジラミなど）から構成される。そのうち頸吻亜目および異翅亜目は採集方法や研究手法に共通性が高いため、本研究ではこの2亜目を調査対象とした。なお「霧多布湿原生きものリスト2018」においてカメムシ目全体では193種が記録されており、そのうち頸吻亜目 59 種、異翅亜目 131 種が含まれている。

## 4 学術研究実施期間

浜中町の各調査地において以下の計 14 日間の野外調査を実施した。

[6月6日-7日, 6月25日-28日, 7月23日-26日, 8月27日-30日]

## 5 研究参加者

奥寺 繁（北海道教育大学旭川校・准教授）  
荒井凌斗（北海道教育大学旭川校・学部4年生）  
伊藤佑悟（北海道教育大学旭川校・学部4年生）  
押切 健（北海道教育大学旭川校・学部4年生）  
林 正美（埼玉大学教育学部・名誉教授）  
山本亜生（小樽市総合博物館・学芸員）

## 5 調査地（別紙1：調査地）

霧多布湿原生きものリスト2018に準じ、以下の10地域区分15地点で調査を行った。なお本調査では国の天然記念物（霧多布泥炭形成植物群落）の範囲には立ち入らず、また霧多布湿原保全地においては土地所有者の許可のもと調査を行った。

霧多布島（霧多布岬）  
霧多布湿原（泥川付近，MGロード沿い）  
榊町（榊町西，ジュンサイ沼）  
茶内（浜中町茶内西3線，茶内若葉1丁目）  
仲の浜（琵琶瀬木道）  
琵琶瀬（琵琶瀬野鳥公園，琵琶瀬展望台）  
暮帰別（暮帰別東）  
幌戸（幌戸沼）  
藻散布（藻散布沼）  
4番沢（霧多布湿原センター，ヤチボウズ木道）

## 6 調査方法（別紙2：調査方法）

採集は捕虫網による樹木や草本類の掬い取り，及びエンジンブロアー（大型吸引機）による地表面や根際の採集を行った。またライトパントラップ（水盆に小型ライトを置いたもの）および大型ライトトラップ（発電機と水銀灯の使用）による夜間の灯火誘引採集も行った。なおトラップ類の設置においては，自然公園法第20条第3項の規定により厚岸霧多布昆布森国定公園の特別地域内における工作物の新築の許可を北海道釧路総合振興から取得し実施した。

## 7 結果（別表1：半翅目リスト，別紙3：注目に値する種）

本研究において，浜中町から頸吻亜目90種（うち浜中町から初記録となる54種）および異翅亜目78種（同29種）が採集された。これまでの浜中町の既知半翅目は193種であり，新たに83種が追加となったため計276種となった。また，半翅目から腹吻亜目を除いた頸吻亜目および異翅亜目に限ってみると，北海道601種（北海道動植物種名目録，2016年）に対し浜中町は273種であり，道内産種の46%に相当する種数が採集されたこととなる。

注目に値する種として、北海道 RDB (2001) に掲載のある希少種 7 種も新たに浜中町から追加された。RDB 掲載種のなかでも、キスジヒラタヨコバイについて従来は採集地や採集個体数は極めて限られたものであったが、本研究ではエンジブロアーによる地表面採集で多くの個体数が得られている。そのため、これまでは採集が困難であったため希少種として認識されていたが、実際には広い範囲の環境に生息している可能性が考えられる。

また、日本新記録と思しき複数の種が確認されている。これらの種はほとんどがロシア極東まで分布する北方種である。これまで道東地域での昆虫調査が乏しかったため、本研究により日本における自然分布が確認されたと考えられる。しかし湿地地表面に生息する種は採集が困難なため、得られた個体数は少ない。また採集された時期が 6 月上旬である種については、従来考えられていた出現時期よりもかなり早いことが判明した。湿地地表面の昆虫はこれまで時期的にも採集方法的にも見過ごされていた点が多いため、今後の追加調査によりさらに多くの新知見が得られることが期待される。

## 8 参考文献

- 奥寺繁・山本亜生・大原直通, 2021. 北海道から初記録となるヨコバイ科 12 種と再確認された 2 種. *Rostria*, (66): 90–96.
- 奥寺繁・山本亜生・大原直通・林正美, 2023. 北海道新記録のヨコバイ. *Rostria*, (66): 51–55.
- 霧多布湿原生ナショナルトラスト. 2018. 霧多布湿原生きものリスト 2018, 115p.
- S. Okudera & M. Hayashi, 2018. New records of four deltocephaline leafhoppers (Auchenorrhyncha, Cicadellidae) from Japan. *Rostria*, (62): 11–16.

別紙1：調査地



4 番沢(霧多布湿原センター)



4 番沢(やちぼうず木道)



霧多布湿原(泥川周辺)



仲の浜(琵琶背木道)



琵琶瀬(野鳥観察小屋公園)



琵琶瀬(琵琶瀬展望台)



暮帰別(暮帰別東)



榊町(ジュンサイ沼)

別紙2：調査方法

【捕虫網による掬い取り】



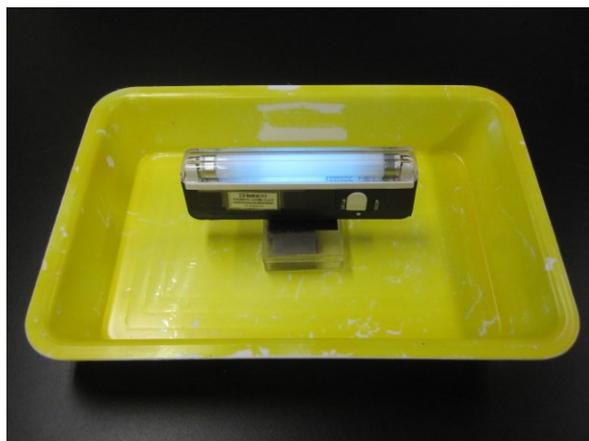
【エンジンプロアーによる吸引】



【大型ライトトラップ】



【ライトパントラップ】



別紙3：注目に値する種 RDB（2001）掲載のある希少種



和名：トビイロアオズキンヨコバイ  
学名：*Iassus brunneus*  
体長：7–8 mm  
分布：日本  
備考：7月下旬に霧多布湿原センターでハルニレから2個体が採集された。



和名：キスジヒラタヨコバイ  
学名：*Anoscopus flavostrigatus*  
体長：2.6–4.5 mm  
分布：日本、ロシア極東、カザフスタン、中央アジア、ヨーロッパ、北アメリカ  
備考：8月下旬にやちぼうず木道の地表面からエンジンプロアーによって複数個体が採集された。



和名：ヒロオビフトヨコバイ  
学名：*Athysanus quadrum*  
体長：4.8–5.6 mm  
分布：日本、極東ロシア、韓国、モンゴル、ヨーロッパ  
備考：7月下旬に仲の浜のスキ根際からエンジンプロアーによって1個体のみが採集された。



和名：ヨシヨコバイ  
学名：*Paralimnus fallaciosus*  
体長：5–6 mm  
分布：日本、韓国  
備考：7月下旬に霧多布湿原センターのライトトラップによって1個体のみが採集された。



和名：サップロウンカ  
学名：*Changeonodelphax velitchkovskiy*  
体長：3–4.9 mm  
分布：日本、極東ロシア、韓国、中国、モンゴル、アフガニスタン、ブルガリア  
備考：7月下旬にやちぼうず木道から1個体のみが採集された。









